

クラス会 2014年 35会例会

ここ10年余り、秋に開催されている35会（S35年卒）は10月28日（火）に京都で開かれた。

11時に京都駅に集合した6名が、まず東本願寺門前を右折して突き当りにある名勝「涉成園」を散策する。

訪れる人もまだらであるが、海外からの参観者もある。街中にこんな静かな庭園があるのか驚きである。

涉成園は駅から徒歩で僅か10分位のところにあり、家光から寄進された約35000㎡（約一万坪有）と広大な敷地を有し、大小二つの池と数棟の茶室に加え、持仏堂と書院群で構成された東本願寺の別邸である。洛北の詩仙堂を開いた石川丈山の作庭になると伝えられ、1653年ごろに開かれ、歴代の上人の隠居所としていた。周囲に枳殻（からたち）を生垣に植えたことから枳殻邸とも呼ばれている。安政と元治の二度の火災により焼失し、現在の建物は明治初期から末年に順次再建されたものである。

一時間あまり 変化に富んだ景観を回遊する。



次に東本願寺に向かう。御影堂の大伽藍は修復が完了し見事である。堂内に参詣し、中央の柱に架け渡された**大櫓の梁（写真）**や、彫り物などを鑑賞。

次いで現在修復作業が進められている阿弥陀堂に参詣。堂内に展示されている**毛綱**は全国各地の門徒から53本も寄進されたそうだが、新潟県の門徒からのもので太さ30cm、長さ69mとか。（明治時代の御影堂、阿弥陀堂再建時に巨大な木材搬出、運搬中に引き綱が切れたため事故が相次ぎ、より強い引き綱が必要となり、女性の髪の毛と麻をより合わせて編まれたのが毛綱である）

その横には**大櫓（おおそり）（写真）**が置かれている。これも新潟県で1883年（M16）3月に木材を搬出していた時に雪崩に遭い、27人の死者と50名以上の負傷者が出た時に使用されていたものである。更に徳川初期の元和8年と記入して鑄造された3.5トンの**梵鐘**が飾られている。

帰り際に、今回の御影堂修復時にはずされた**明治瓦**を利用した**ベンチ（写真）**が興味をひいた。



13時40分ごろに本日の会食会場である京都駅ビル11階の中華料理「點心茶室」に集合。

参加者10名。早速料理の注文。おなじみの海鮮チリソース、酢豚、麻婆豆腐、炒飯、スープなどなど。

幹事より、最新版の名簿配布。欠席者らの近況便りの報告。来年2015年が卒業55周年の節目の年になるので記念行事をしてはとの意見有り、「卒業から現在まで55年の思い出文集」を出してはとの提案もあり、会員に諮ることになった。

近年は参加者が近畿中心となり、物故者も9名を数え、やや寂しいが、まだ現役者もあり、ボランティア活動で講演などを精力的に続けている人もいる。

よもやま話も尽きないが、次回の幹事を鈴江、坂東両君に依頼し、記念写真を撮り、再開を念じ、4時半ごろ散会。

(担当幹事中村、園田)



後列左から 園田、鈴江、衛藤、飯井、坂東
前列 中村、安部田、林、黒田、法貴

(色染35・園田英雄)